



読書活動への扉を開く！

No.79

桑村小学校令和6年1月19日 文責 渡邊

「しつけ」と「時間管理」とは？これがなかなか難しいですね!!

今回の読書通信も、工藤氏が著した『麹町中学校の型破り校長 非常識な教え』（SBクリエイティブ 2019年9月）を参考に、「しつけ」と「時間管理」についてまとめてみました。

第二章『心の教育』を疑う「しつけの本質とは？」の中に、「ゲームに没頭する子への声のかけ方」というタイトルで、工藤氏は次のように述べています。

「子どもたちがゲームやYouTubeに熱中してばかりです。いくらそれが学びにつながると理解していても、ずっとやらせるのは親としてどうなのかと不安になってしまいます。」

これはよくある相談です。子どもの個性や興味・関心を尊重するといっても、家庭内ルールがないと収拾がつかない場合があるかもしれません。

私の考えでは、基本的に中学生くらいになれば、タイムマネジメントの概念ややり方さえ教えれば、試行錯誤をしながら自分でルールを決めていけるようになると思っています。ただ、必ずしも自制心がある子どもばかりではありませんし、小学生以下の子どもはある程度、親が軌道修正をしていく必要があるでしょう。

ただ、そんなときでも、一方的に親がルールを決めて子どもに強制するのは避けたほうがいいと思います。なんども言いますが、親の言いなりでは子どもが自律性や主体性を身につける機会がどんどん奪われていきますし、親に対する反発心が生まれるリスクがあるからです。

一番いい解決方法は、親子で話し合いの場を設けること。そして、親から条件をいくつか提示して、最終的に子どもに選ばせる形をとること。これがポイントです。

話し合いの場を設けると、子どもの要望を聞く姿勢が見せられますし、実際に親の意向が反映されたルールであっても、子どもが自分で決めたこととなります。

(P97.98より引用)

子供たちにとってゲームを行うことはとても大きな喜びのようです。ゲームソフトもどんどん改良され、子供たちの興味や関心は膨らんでいくばかりの状況にあるように思われます。

そうした中、大きな問題となるのが、子供たちの「ゲーム時間」です。平日、どれくらいの時間、ゲームを行っているのでしょうか？

親としては悩ましい問題ですね。大人が一方的に時間を設定することは課題の解決にはならないと工藤氏は述べています。子供に「自律」を促すには、親子での話し合いが大切だと言うのです。

私もその意見に同感です。親が一方的に使用できる時間を決め、それを「守れ！」と言っても、子供は納得しないでしょう。そして、なによりも自分で決めることができない子供に育つのではないのでしょうか？「しつけ」とは、とても難しいものです。

そこで、是非、親子でタイムスケジュールを立ててみてはいかがでしょうか。時間を自分で管理することは容易なことではありません。しかし、「自律」を育成するには、ここが重要な鍵となるように思います。基本的には、この時間管理の概念は、中学生の頃から身に付くものだと言われているので、完ぺきなものを目指すことは避けるべきでしょう。

1日は、24時間もあるのか、24時間しかないのか。時間の感覚は人それぞれです。親子で時間の管理と時の大切さを考えてみてはいかがでしょうか？



【タブレットを活用した授業より】